

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 1 区分

【発行日】令和 3 年 9 月 30 日 (2021.9.30)

【公開番号】特開 2020-95916 (P2020-95916A)

【公開日】令和 2 年 6 月 18 日 (2020.6.18)

【年通号数】公開・登録公報 2020-024

【出願番号】特願 2018-234684 (P2018-234684)

【国際特許分類】

H 0 1 R 13/6581 (2011.01)

H 0 1 R 13/56 (2006.01)

H 0 1 R 13/639 (2006.01)

【F I】

H 0 1 R 13/6581

H 0 1 R 13/56

H 0 1 R 13/639 Z

【手続補正書】

【提出日】令和 3 年 8 月 20 日 (2021.8.20)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 10

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 10】

請求項 1 から請求項 9 までのいずれかに記載のコネクタ組立体であって、
前記第 1 シェルは、前記前後方向に延びる軸を中心として回転対称な形状を有しており

、

前記第 1 ハウジングは、被受部と、第 1 ロック部とを有しており、

前記被受部は、前記軸を中心として回転対称な形状を有しており、

前記第 2 シェルは、前記軸を中心として回転対称な形状を有しており、

前記第 2 ハウジングは、受部を有しており、

前記受部は、前記軸を中心として回転対称な形状を有しており、

前記受部には、付加的第 2 ロック部が形成されており、

前記第 2 コネクタは、上下反転状態の前記第 1 コネクタと嵌合する逆嵌合が可能となっており、

前記被受部は、第 1 コネクタと第 2 コネクタとが逆嵌合した逆嵌合状態において、前記受部に受容されており、

前記付加的第 2 ロック部と前記第 1 ロック部は、前記逆嵌合状態をロックするコネクタ組立体。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0015

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0015】

また、本発明は、第 10 のコネクタ組立体として、第 1 から第 9 までのいずれかのコネクタ組立体であって、

前記第 1 シェルは、前記前後方向に延びる軸を中心として回転対称な形状を有しており

、

前記第 1 ハウジングは、被受部と、第 1 ロック部とを有しており、
前記被受部は、前記軸を中心として回転対称な形状を有しており、
前記第 2 シェルは、前記軸を中心として回転対称な形状を有しており、
前記第 2 ハウジングは、受部を有しており、
前記受部は、前記軸を中心として回転対称な形状を有しており、
前記受部には、付加的第 2 ロック部が形成されており、
前記第 2 コネクタは、上下反転状態の前記第 1 コネクタと嵌合する逆嵌合が可能となっており、

前記被受部は、第 1 コネクタと第 2 コネクタとが逆嵌合した逆嵌合状態において、前記受部に受容されており、

前記付加的第 2 ロック部と前記第 1 ロック部は、前記逆嵌合状態をロックするコネクタ組立体を提供する。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0035

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0035】

図 5 及び図 6 に示されるように、本実施の形態の外周 265 は、第 1 ハウジング 240 の前後方向における中央付近に位置している。外周 265 は、前後方向と直交する直交平面において収容部 255 を囲んでいる。外周 265 は、上板部 241 の第 1 押付部 242 を含んでいる。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0039

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0039】

図 9 に示されるように、本実施の形態の第 1 端子 222 は、第 1 保持部材 224 に保持されている。第 1 端子 222 は、前後方向と直交するピッチ方向に並んでいる。より詳しくは、第 1 端子 222 は、上下方向において 2 列に分けられている。各列の第 1 端子 222 は、ピッチ方向に並べられている。第 1 端子 222 は、前後方向に延びる軸を中心として回転対称となるように配置されている。第 1 端子 222 は、第 1 コネクタ 200 がケーブル 800 に取り付けられた際に、芯線 810 に夫々接続されている。より詳しくは、第 1 端子 222 は、第 1 コネクタ 200 がケーブル 800 に取り付けられた際に、芯線 810 に夫々間接的に接続されている。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0070

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0070】

図 11 及び図 12 を参照して、本実施の形態の第 2 シェル保持部 535 は、樹脂製であり、前後方向に延びている。第 2 シェル保持部 535 を後方から見た場合、略トラック形状を有している。第 2 シェル保持部 535 は、直交平面において、ピッチ方向に長いトラック形状を有している。図 3 に示されるように、第 1 コネクタ 200 が第 2 コネクタ 500 と嵌合した際に、第 2 シェル保持部 535 は、第 2 コネクタ主部収容部 249 に収容される。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 0 7 9

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 7 9 】

図 1 1 及び図 1 2 を参照して、本実施の形態の第 2 シェル 5 3 0 は、金属製であり、前後方向に延びている。第 2 シェル 5 3 0 は、前後方向に延びる軸を中心として回転対称な形状を有している。第 2 シェル 5 3 0 を後方から見た場合、略トラック形状を有している。第 2 シェル 5 3 0 は、直交平面において、ピッチ方向に長いトラック形状を有している。

【 手 続 補 正 7 】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 8 3

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 8 3 】

図 2 及び図 3 から理解されるように、嵌合状態において、第 2 シェル 5 3 0 の後端 5 3 2 から前側保持部 2 5 0 までの前後方向における距離 D 3 は、前側保持部 2 5 0 から後側保持部 2 6 0 までの前後方向における距離 D 4 より短くなっている。